

事後評価結果（平成22年度）

担 当 課：九州地方整備局 道路部 道路計画第一課
担当課長名：荒瀬 美和

事業名	へつぎいぬかいかくふく 一般国道10号 戸次犬飼拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	おおいたけんおおいたしおおあさなかはんた 自：大分県大分市大字中判田 おおいたけんおおいたしおおあさかみへつぎ 至：大分県大分市大字上戸次			延長	9.9km

事業概要

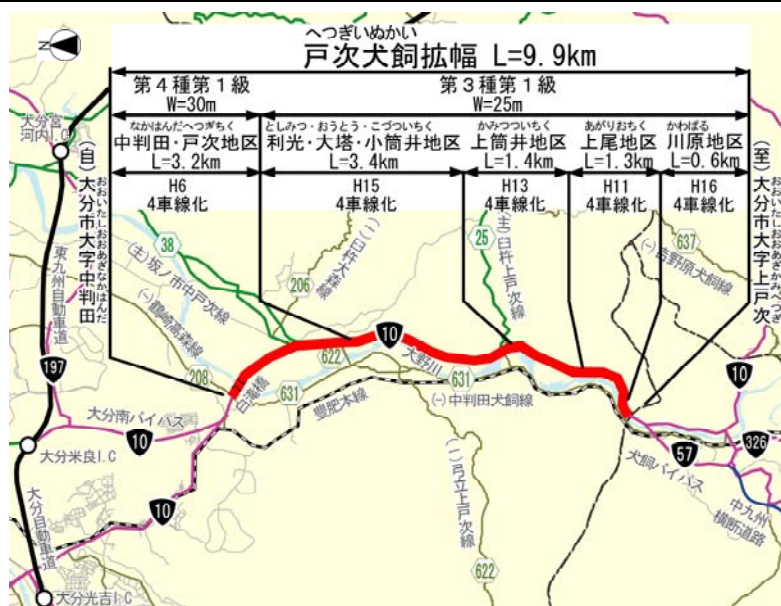
国道10号は、北九州市を起点とし、大分市、宮崎市を経て鹿児島市に至る延長約450kmの主要幹線道路であり、東九州地域を南北に結び、社会、文化、経済活動に重要な役割を果たしている。

戸次犬飼拡幅は、大分都市圏を形成する大分市や隣接する豊後大野市・臼杵市を結ぶ延長9.9kmの現道拡幅事業である。

事業の目的・必要性

国道10号戸次犬飼拡幅は、当該区間が抱えている交通渋滞や交通事故といった問題の解消を図るとともに、道路の信頼性・機能性の向上や救急医療活動および地域間交流の支援などに寄与する道路である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：H元年度 都市計画決定：S62年度	用地着手：H2年度 工事着手：H4年度	供用年：(当初) — / H17 (暫定/完成) (実績) — / H17	変動	1.0倍
	事業費	計画時 (名目値) — / 493億円 暫定/完成 (実績値) — / — 億円	実績 (名目値) — / 500億円 暫定/完成 (実績値) — / — 億円		変動	1.01倍
	交通量 (当該路線)	計画時 将来交通量 (H42) 暫定/完成 — / 32,300~55,500台/日	実績 (暫定/完成) — / 32,123~43,664台/日		変動	— %
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	19km/h → 41 km/h (供用前年次) S55年 (供用後年次) H18年	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道) 37.1件/億台キロ → 24.9件/億台キロ (供用前年次) H8~H10年平均 (供用後年次) H18~H20年平均			
費用対効果 分析結果 (前回再評価)	B/C : 2.0	総費用 : 663億円 (事業費 : 608億円 維持管理費 : 55億円)	総便益 : 1,339億円 (走行時間短縮便益 : 1,250億円 走行経費減少便益 : 46億円 交通事故減少便益 : 43億円)	基準年	平成16年	
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C : 2.3	総費用 : 750億円 (事業費 : 688億円 維持管理費 : 62億円)	総便益 : 1,724億円 (走行時間短縮便益 : 1,634億円 走行経費減少便益 : 54億円 交通事故減少便益 : 36億円)	基準年	平成22年	
事業遅延によるコスト増		費用増加額	— 億円	便益減少額	— 億円	

	<p>事業遅延の理由 特になし。</p>
	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目 ・円滑なモビリティの確保（国道10号の損失時間の削減：削減率約1割） ・国土・地域ネットワークの構築（大分都市圏間を最短で連絡する路線を構成：大分市～豊後大野市間の所要時間の短縮：92分⇒76分）</p> <p style="text-align: right;">他12項目に該当</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目 ・交通混雑の緩和（久原交差点での平日の最大渋滞長3,000mが解消） ・災害への備え（架設後50年近く経過した白滝橋（上り線）の架け替えにより道路の信頼性が向上） ・物流効率化の支援（車両総重量25tに対応していない白滝橋の架け替えにより大型車通行規制が解消）</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目 環境影響評価、対象外事業である。</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目 ・供用に伴い騒音値が要請限度を下回る（80dB⇒72dB）。</p>
	<p>事業評価監視委員会の意見 特になし。</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・沿線地域（大分市・豊後大野市・臼杵市）の人口は、昭和60年以降、増加傾向である（H21/S60で約1.1倍）。 ・沿線地域の高齢化率は進展（H21：22.1%）。 ・沿線地域の自動車保有台数は増加傾向にある（H21/S60比で約1.8倍）。 ・豊後大野市から大分市間までの通勤・通学者数は増加傾向（H17/H12比で約1.1倍）。 ・国道10号の交通量は、約4割増加（H18/H2）。</p>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 戸次犬飼拡幅の整備に伴い、国道10号の交通混雑が緩和され、所要時間が約16分短縮するなど十分な効果が発現している。白滝橋架け替えに伴う『道路の信頼性・機能性の向上』など重要な役割を果たしていることから、さらなる事後評価の必要はない。 国道10号戸次犬飼拡幅は、大分都市圏の一部を形成する大分市・豊後大野市・臼杵市を結ぶ主要幹線道路として機能するとともに、九州横断自動車道長崎大分線及び東九州自動車道と中九州横断道路を結ぶ交通の要衝として重要な役割を果たしている。本事業により、『交通混雑の緩和』『交通安全性の向上』等について大きな整備効果が得られており、今後の改善措置の必要性はない。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 事業期間の長期化を避けるために、計画時点からPI等による沿線住民との合意形成を図り、周辺環境に配慮しながら、円滑な事業展開を行うことが必要である。 予算制約という状況下では、事業区間の中でも「選択と集中」を行い、緊急性の高いところから重点的に実施し、段階的な整備を計ることで早期に整備効果を発現させることが必要である。</p>
	<p>特記事項 特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。